

cool Japan cool Bansyuori —播州織再発見と西脇産ブランド発信—

1 事業の概要

(1) 本校の概要

本校のある西脇市は、兵庫県のほぼ中央、北播磨地方に位置し、先に糸を染めて織りあげる先染め織物「播州織」の産地である。普通科7クラス（H28年度より6クラス）、生活情報科1クラスの全日制高校で、創立77年の伝統ある進学校である。平成9年に家政科から生活情報科に学科改編し、情報教育と地場産業「播州織」を取り入れた服飾デザインによる教育を特色としている。地域と連携し、播州織を使った様々な活動に取り組んでいる。

(2) 研究の目的

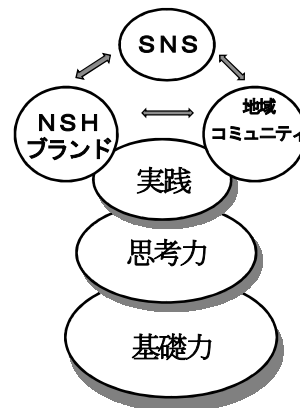
- ア 播州織産地としての、伝統ある織物や昔ながらの職人技を再発見し、世界に誇れる技術や日本の文化、織物の文化を理解するとともに、企業で使用されている織組織制作コンピュータシステムを導入し、播州織生産の最先端技術を身に付けた将来の播州織のスペシャリストを育成する。
- イ 消費者のニーズを考え、播州織製品のプランニングやデザイン、リサーチの他、マーケティングやプロデュースをする力を身に付けた地域産業を担う将来のスペシャリストを育成することを通して、地域産業を活かした新たな「家庭に関する専門学科」の在り方を研究する。
- ウ 播州織のすばらしさとともに、NSHブランド（西脇高校生活情報科ブランド）として、高校生の感性を活かして、地域で学んだ播州織技術と日本文化や西脇の文化を秘めたオリジナルブランドを世界に発信する。
- エ 播州織でつながる町づくりのすばらしさを再認識し、「播州織で織りなす町」を西脇高校から情報発信し、コミュニティづくりの一端を担う。

(3) 研究概要

上記の研究目的を達成するために、1年目は、「基礎力」の習得を中心に研究を行った。「基礎力」となる5つの力（播州織の知識・デザイン力・製作技術・言語能力・日本文化の理解）を身に付けさせるための取組を進めた。

2年目は、「思考力」の習得を中心に研究を行った。「思考力」を付けるための(1)マーケティングと商品開発 (2)織物文化の伝承 (3)新・播州織の提案 (4)情報発信 に取り組んだ。1年生では、日本の文化の理解から cool Japan を考察し、2年生では、これまでに学んだ知識や技術を統合してグループで共通理解を図りながらブランド企画を実践し、3年生では、「デザイン思考」の「ビジョン→共感→問題提起（課題）→創造（結論）→試作（行動計画）→検証」というプロセスを理解して実践していく中で、柔軟な発想力や想像力、課題解決能力や協調性、責任感を養うことができた。

本年度は、「実践力」の習得を中心に取組を進めるため、Made in Japan や cool Japan を意識して、海外に向けたものづくりや西脇高校オリジナルブランドを提案し、播州織の海外発信を目指した。また、播州織のテキスタイルデザインに限らず、様々な場面で、「デザイン思考」を取り入れ、ニーズや課題を分析しながら、播州織を通じた地域の活性化やコミュニティづくりに取り組んだ。



2 具体的・特徴的な実践内容

(1) 「基礎力」の養成

ア 播州織の知識

1年目は全員で播州織工場見学を行い、製造工程を理解した。2年目は、地域の撚糸工場・織布工場などに分かれて見学し、それぞれがレポートにまとめ発表することで情報の共有を図った。さらに3年目は、全員が一連の流れを見学し、夏休みに各自が地域の工場の見学を行いレポートにまとめ、プレゼンテーションを行った。また、夏休みにインターンシップを行い、播州織に対する思い、丁寧な仕事や職人のこだわりなどを通して、地域への誇りを感じることができた。

イ デザイン力

刺繍やスモッキングなどの応用作品は、できるだけ自由な発想でデザインを考えるように工夫した。また、家庭クラブ活動として行っている播州織プロジェクトでの小物づくりなどにおいて、新しいアイデアやデザインを考える機会を設けている。地域からの協力もあり、デザイナーの講演や研修にも積極的に参加している。

ウ 製作技術

Can do リストを作成し、生徒の到達目標を明確にしながらい指導の定着を図ることができた。また、指導方法を検討し、原型からのパターンを展開を導入し、レベルアップに取り組むことができた。

エ 言語能力

実習や講義、イベントに参加した際には、毎回レポートを提出し、各自のポートフォリオを作成した。また、情報関係の授業内容を工夫し、コラムを取り入れるなど、読書や発表の機会の工夫を行った。

オ 日本文化の理解

1年「日本の文化と地域産業」では、茶道や華道、自然や日本の文化や美しさを追究し、レポートやプレゼンテーションにまとめて発表することで、その理解を深めた。

(2)「思考力」の定着

ア マーケティングと商品開発

播州織を軸に、地元商店街のイベント等を企画する「きらら商店街の活性化プロジェクト」や西脇市で活躍するフラダンスチームの衣装製作等を企画する「フラ・プロジェクト」、『地元の駅を日本一に』を考える「西脇市駅プロジェクト」、西脇産金ゴマの活性化を考える「第二次金ゴマ革命」など、学習した「デザイン思考」の手法を用いて、地域活性化を目指し取り組んだ。

イ 織物文化の伝承

綿の栽培から、糸紡ぎ、草木染めや手織りを行うことで織物の原点から理解し、また手仕事を通して創造性を育むことができた。

ウ オリジナル播州織の提案

京都研修：京都の歴史や景色、日本の文化や自然の美しさを再認識し感性を磨く。京都の自然や文化から感じた「美しいもの」をレポートし、何がどのように美しいのかを、言葉やイメージで表現することで、日本の美しさとはばらしさの理解を深めた。

東京研修：ファッション業界のものづくりの世界を理解し、日本の最先端技術やアパレル産業を知ることにより、地場産業「播州織」の魅力を見直した。

パリ研修：パリで行われた世界最大の素材見本市「プルミエール・ヴィジョン」の見学を通して、グローバルな視点から播州織を捉える。Made in Japan や cool Japan について、日本の文化や美意識を見直し、日本人の感性を意識した作品づくりに生かした。

NSHブランドの提案：2年生40人が、今までの研修で学んだ知識や感性をもとに、“My favorite style”をテーマにして、画像処理ソフトの技術を用いて、各自イメージマップを制作した。これらを4つにグルーピングし、各々、シンプルでかっこいい系の「Stylish girl」、ビンテージをキーワードにした「レトロ」、少し大人っぽくかわいい系でカラフルな色にこだわった「My Color」、スポーティやカジュアルなイメージでデニムと組み合わせた「チェニム」(チェック×デニム)をテーマに決めた。その後、それぞれのテーマに沿った服をデザインし、東条湖おもちゃ王国の協力でタカラトミーのリカちゃん人形用の服に仕上げ、各ブランドのイメージマップを立体的に表現した。テーマに添った播州織を提案するとともに、その播州織を用いてNSHブランド製品の製作に取り組んだ。

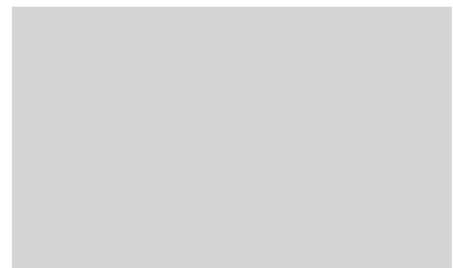
エ 情報発信

外部講師授業では、情報発信をする際に様々な状況を想定し、ターゲットや目的を考え、キーワードを設定するなど、配慮や工夫が必要であることが理解できた。今後、ターゲットや目的を明確にしながらい、継続して情報発信ができるように、指導や組織の工夫を考えていきたい。

(3)「実践力」の習得

ア 海外に向けたものづくり—NSHブランドの発信—

様々な研修を通して学んできた日本人としての感性を活かすとともに、播州織の最先端技術や特徴を取り入れ、素材・色・組織・加工等を産元商社と連携して企画デザインを行い、新しい播州織製品を提



生活情報科ホームページ

案し、布地からアパレル商品までを自分たちでデザインした「NSHブランド」の発信に取り組んだ。

① 国際フロンティア産業メッセ2016 にて展示 (ベスト展示賞 受賞)

神戸国際展示場で行われた西日本最大の総合見本市に出席。来場者に積極的に声掛けをし、播州織を通じた地域活動の取組の説明を行うことで、自信や誇りを感じることができた。また、2日目に行われたプレゼンテーションも多くの方に情報発信することができた。



国際フロンティア産業メッセ2016

<生徒感想>

・「なんで高校生が？」と少し批判的な言い方をされる方もおりましたが、自分たちの活動を説明していくことで理解し興味をもってもらえることができました。そして自分たちが行っている活動は、多くの会社の方からも興味を持ってもらえることだと実感し、自信を持つことができました。

・「衣装は販売しているの？」と質問があり、販売してみたいと思いました。

・言葉遣いだけでなく、伝え方やコミュニケーションのとり方、臨機応変に対応すること、質問に対して的確に答えるための情報量など、改めて大切だと思いました。

② パリ研修での作品展示

上田女子服飾専門学校との協力で、リボンメーカー「SHINDO」のショールーム（パリ2区中心街）にて、播州織作品の展示を行い、本校の取組を発信した。



<生徒感想>

・パリでも、こんな高級地区のショールームで展示ができたことは、本当にすごいことだと思った。

・多くの方が播州織に興味を示してくださったことにとっても驚いたし、播州織ってすごいと、改めて思いました。

・現地の方に「すばらしい。日本の高校生がこのような活動を行っているということをもっと広めていくべきだ。」と言っていただき、自信を持つことができました。

・来ていただいた方は、現地高校生の日本語の講師、デザイナー、区役所の方など、これからの活動に繋がる手がかりを見付けることもできたと、アドバイスもたくさんいただくことができました。



パリ研修

イ SNSの活用

常に新しい情報発信を行うための体制づくり等に計画的に取り組み、「西脇高校高校のホームページ」等からの情報発信の充実を図る。



Homepage



Facebook



Instagram

ウ 地域のコミュニティづくり

① 「TUMAこいカフェプロジェクト」

店の暖簾や座布団カバー、スタッフのエプロン等を製作するほか、イベントの共催や運営の補助をすることにより、播州織を通して高齢者が活躍できる場所づくりとコミュニティづくりの拠点を考える。

<生徒感想>

・司会進行を行っている時、伝わりにくかったり、敬語が話せなかったり、うまくできませんでした。正しい敬語や伝えたいことが言葉として出てくるように、もっと新聞や本を読まないといけないと思いました。

・高齢者との交流は、入学した当初苦手でしたが、何回か交流しているうちに、楽しいと思えるようになりました。特に今回のように、ゆっくりお話をするときは、昔話をしてくださったり、ニコニコ楽しそうに思い出を話してくださいます。たまに同じことを何度も何度も聞いてこられたり、話されたりしますが、何回話しても笑顔で、何度も聞くこちらまで笑顔になれるので楽しいです。



TUMAこいカフェ

・認知症の方とたくさんお話しをしました。同じ話をしているようでも、実は少し話が変わっていたり、前に話している内容をさらに広げたものだったりしました。交流会が終わってから、「よく耐えとったなあ。大変じゃなかったの？」と言われましたが、私は全然そんなことは思いませんでした。むしろ話の内容がよく分かって、自分からも話しかけやすかったです。対応の仕方など学ぶことがたくさんあったいい交流会でした。

②「親子ソーイング教室」と「僕も私もデザイナー」

世代を越えたものづくりの提案や、デザインした服を実際に子供たちと高校生と一緒に製作しファッションショーで披露することで、播州織の普及を考えた。

<参加者の感想>

- ・材料をもらった時は「もうここまで仕上げているの!」と思いましたが、まだ不慣れな子供が短時間に完成させるためにはありがたい配慮でした。企画・準備から後片付けまで大変お世話になりありがとうございました。可愛くて優しいお姉さんに教えてもらいながらのソーイング教室はとても楽しかったようで「お母さんのエプロンも私がやるわ」と娘が縫いました。少し歪んだ縫い目のお揃いのエプロン、大切にします。(母)
- ・年の離れたお姉さんに、優しく教えてもらえたので、いつもより集中してできていました。完全に子供をお任せできたので、違う一面を見ることができました。(母)
- ・はじめてミシンをつかってとてもたのしかったです。毎日つくったエプロンをつかっています。高校生のおねえちゃんにおしえてもらってわかりやすかったです。家にミシンがないのでミシンがほしいなと思いました。(5歳児)



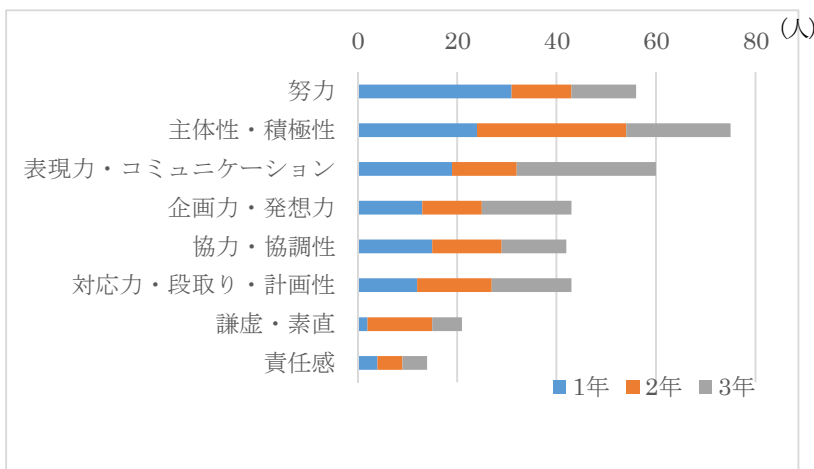
僕も私もデザイナー

3 成果と今後の課題

(1) 研究成果

ア 授業や行事等の実践に対する生徒の変容 (1年40名、2年38名、3年40名の自由記述から)

SPH事業を通して、自分に身についたと思うものを3つ挙げ、どのような場面で身に付いたかを書きなさい。



<1年生の分析>

- ・努力の大切さ、努力を怠らない、努力した分強くなれる、練習し続けることなど努力することを学んだとする生徒が最も多い。
 - ・情報でのブラインドタッチや被服の基礎縫いなど技術の習得が多い。
 - ・自分で考える、先のことを考えて行動する、先を見通して行う、周りを見て行動するなど、主体的に考えることを学んでいる。
- <生徒感想例>中学校までは、言われたことだけを忠実にして満足していた。高校ではそれではだめだと気づかされた。

<2年生の分析>

- ・主体的に積極的に取り組もうとしている。何事にも挑戦すること、興味を持って取り組む、チャレンジしていく大切さ、積極的に課題に取り組む、などいろいろな場面で主体的に考え取り組むことを意識している。
 - ・2年生では、調理実習やグループ学習において、協力することや協調性を学んだとしている生徒が多い。
- <生徒感想例>多い宿題にも楽しそうに取り組む仲間を見て、積極的な態度で取り組むことができるようになった。

<3年生>

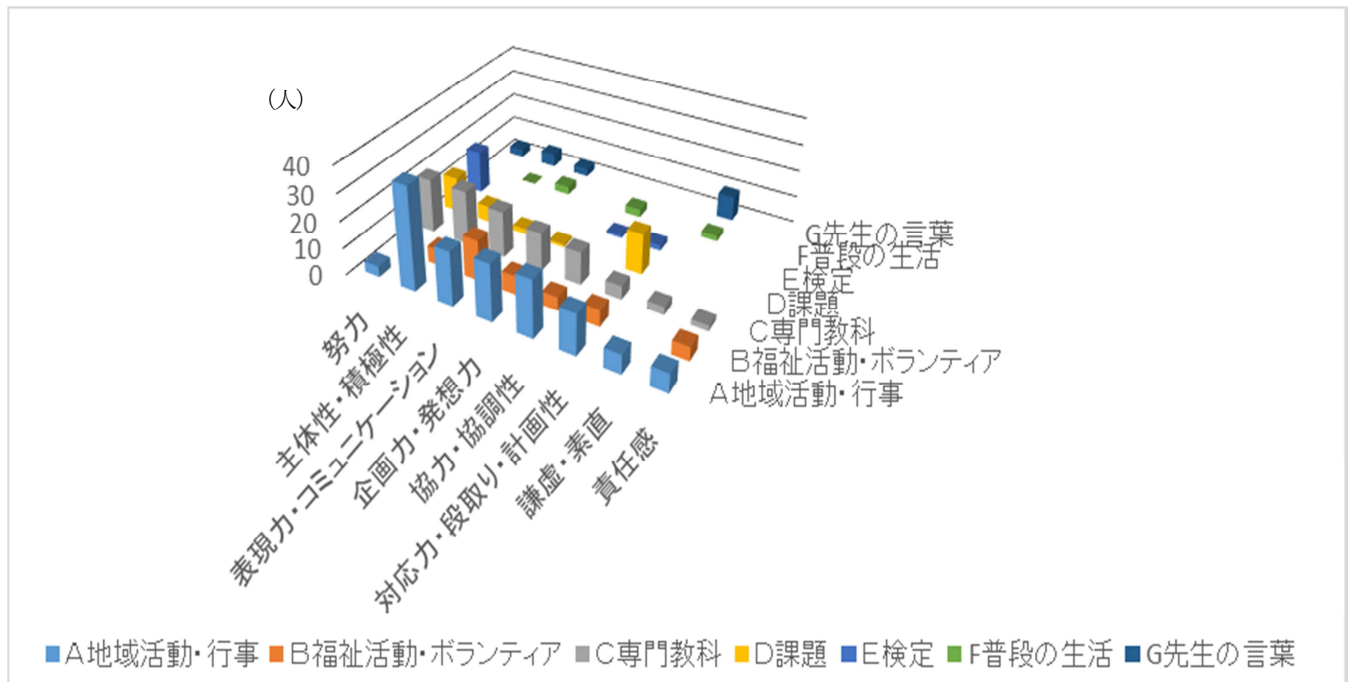
- ・課題研究での福祉活動やイベントが増え、コミュニケーション能力を挙げている生徒が多い。
 - ・様々なプロジェクトやイベントを主体的に実施することで、企画力や発想力、対応力や段取り力などが身についている。
- <生徒感想例>教えてもらったことをどれだけ自分のものにするか、指示されたことをどれだけ受けとめるか、頼まれたことをどれだけ快く引き受けるか、それは全て謙虚さが大切だと思いました。そして頼られる信頼される人間になっていくと感じました。

イ ファクター分析

多くの生徒が地域活動や行事、専門教科の学習を通して様々な力を身に付けることができたと感じている。地域活動や行事への参加を通して得たものとして主体性や積極性、協調性に加え、企画力や発想力を挙げる生徒が多いことは、3年間のSPH事業の取組の成果である。さらに、専門教科の学習を通して、積極性や主体性が高まり、その結果、知識や技術力、技能の向上を図ることができたことは、家庭に関する学科としての基本的な目的が達成できているものと言える。

平素より専門的職業人に求められる企画力や調整力の向上を目指して、様々なイベントや行事を生徒に計画の段階から担当させてきた。主体性や自主性については平素の授業や実習等の時間を通して身に付けさせた。全ての生徒に個々の状況に応じた難関を設定し、適度な課題を与えることを意識しながら指導にあたった。このような日々の活動が生徒の様々な力の向上につながったと思われる。

それぞれの教育活動を行う際に、生徒にどのような力を付けさせたいか、指導に当たる教員が目標を明確にしたうえで共有し指導していくことが必要である。専門的職業人として求められる多くの資質を身に付けさせるうえで、留意すべき点である。



ウ 家庭に関する学科の在り方

①専門教科指導 アンケートの結果から、教科指導の在り方をまとめた。

全面制御学習 → 有意味受容学習 → 誘導発見学習 → 独り立ち学習

1年	2年	3年	目標と留意点
ファッション造形基礎 生活産業情報 日本の文化と地域産業 家庭基礎	ファッション造形 フードデザイン グラフィックデザイン 家庭情報応用 選・リビングデザイン	生活産業とマーケティング 課題研究 選・キルト	基礎・基本を一層重視し、専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図るとともに、ものづくりなどの体験的学習を通して実践力を育成する。
基礎基本の充実 努力 計画性 考える	思考力・発想力の充実 主体的 積極的 協調性	主体的な実践活動 コミュニケーション 能力 その他	基礎基本の技術の習得：正しい方法で確実な技術指導 出来るまで繰り返しやり直す 成功体験：やってよかった・できて満足する内容 目に見える形にする：発表する 展示する 努力する姿勢
			考えさせる：思考錯誤しながら取り組む姿勢 課題の工夫 表現力 グループ学習を取り入れる：個人レポート→グループ討議→ 1つにまとめる→個人レポートで学習の確認→ 評価 外部講師授業によりレベルアップを目指す
			プロジェクトチームで活動する：リーダーを作る 全ての企画を任せる：企画目標をしっかりと理解させる 地域活動へ展開する：デザイン思考により企画し実践する

②地域行事・地域交流

- ・西脇市との連携
西脇市ファッション都市構想の企画にできるだけ参加していく。
播州織ファッションショーやイベントなど連携体制を密にしていく。
姉妹都市レントンとの交流を図り、グローバルな視点での取組の機会とする。
- ・播州織産業界との連携
地域に学び、高度な技術と職人の思いを知り、地元の誇りと愛着を育てる。
高校生の発想でオリジナル播州織の企画、提案の機会をシステム化する。
- ・卒業生との連携
地域で活躍している卒業生と連携し、地場産業「播州織」の専門的な学習が継続して行えるシステムを構築する。



*目標を明確にして取り組む
→デザイン思考で考えさせる。

*依頼に対して、できる方法を考え臨機応変に対応する。
→範囲や内容を工夫する。
→生徒が直接対応し、主体的に企画、計画、実践する。

(2) まとめと今後の課題

3年間のSPH研究指定を受け、スペシャリストを育成するための目標を設定し取り組んできた。多くの方々に指導していただき、1年目は「基礎力」、2年目は「思考力」、3年目は「実践力」と段階的に積み上げ、様々な活動や学習内容等を検討し実践してきた。また、工場見学やインターシップなど地域産業と連携した研修や高校生の発想でNSHブランドを発表したり、播州織を活用したワークショップや交流会を企画し、コミュニティづくりを実践したりするといった取組の中で、生徒は地域に支えられていることの感謝と、地元への誇りや愛着を持つことができた。

様々な実践活動では、デザイン思考を取り入れ、問題点や課題を把握し、企画、実践していった。ただ単にものづくりを行うのではなく、その目的や過程を意識しながら、グループで取り組むことが重要である。各自が自分の考えやアイデアを持ちそれぞれの情報を共有し1つにまとめていく。その過程で生徒は発想力や企画力、実践方法などを身に付けた。

また、播州織産地に学ぶことに加えて、グローバルな視点で播州織のすばらしさと高校生の感性を海外へ発信しようと、展示会や産業教育フェア、ホームページ等において英語でのプレゼンテーションを試みた。この取組を通して、地域連携や播州織のすばらしさを英語で表現していく難しさを感じるとともに、自分たちの活動や思いを再確認することができ、さらに意欲的に海外発信を考えるようになった。パリ研修では、海外の文化や自然に触れることで、改めて日本の美意識や感性を感じ、つまみ細工等の日本の伝統技術や日本文化の良さを見直すことができた。パリ研修の2年目には、パリで播州織作品の展示会を行い、オリジナルの播州織作品や会場での高校生の対応に感動と共感を得るとともに、日本文化のすばらしさを改めて認識し、自分たちの活動に誇りと自信を持った。

3年間のSPHの取組において、生徒はそれぞれが自分の力を精一杯発揮し、明るく生き生きと取り組んできた。個々が自立し主体的に取り組みながらも、チームワークをもって一つのものを作り上げてきた。これらの取組を通して得ることができたリーダーシップや責任感、こだわりをもちながらも協力していく力は、スペシャリストとして必要な資質である。また、専門教科の学習で知識・技能を習得させるだけでなく、実践的・体験的な活動を通して、その根底にある理論を理解させるとともに、生活産業に従事するスペシャリストとして、望ましい勤労観や職業観をもたせ、生涯にわたって学ぶ意欲を身に付けさせることも重要である。本年度は、従前より行っている資格取得や技術検定に加え、全国レベルのコンテストや大会に挑戦させるなど、目標を持った意欲的な学習をとおして課題を探究し、自ら考え行動し解決する力、適応していく力を身に付けさせるとともに、コミュニケーション能力や協調性、積極性、創造性に加え、職業人として必要な人間性や規範意識、倫理観等の育成についても念頭に置き指導した。

SPH研究指定で取り組むことができた内容を、今後、いかに継続させていくかが課題である。手法や内容が変わっても本質的なものは普遍的に指導が続けられることが必要である。このため、教師には発想力と柔軟な対応力が試されるが、本校の場合は、地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育とそのための工夫がさらに必要と感じている。また新たなプロジェクトが始まる思いである。